

シリア介入警戒と米緩和縮小懸念から値を下げる LME銅、NY銅ともに反落、錫はLME・KLTMともに上昇

5日入電のLME銅相場は前日比153ドル安の7,092.5ドルと反落。シリア介入警戒と米緩和縮小懸念から値を下げ、7,100ドル割れに。

NY銅相場は6.00セント安の323.65セントと反落。シリア介入警戒と米緩和縮小懸念で下落。NYカーブは7,139.50~7,142ドルとなり、LME先物比20.75ドル高となった。

錫は需給タイト感から大幅高

LME錫相場は545ドル高の2万1,785ドルと続伸。需給タイト感から値を上げ大幅高に。

鉛はシリア介入警戒でリスク回避に

LME鉛相場は26ドル安の2,121ドルと続落。シリア介入警戒でリスク回避から下落した。

亜鉛はシリア介入警戒で下落

LME亜鉛相場は37ドル安の1,834ドルと反落。シリア介入警戒で下落して引けた。

橋本健一郎氏のアルミスクラップ8月レポート及び9月見通し

■概況: 前半は7月の米雇用統計で失業率が7.4%と予測より0.2ポイント下がったことから金融緩和縮小時期が早まるのでは?などのマイナス材料はあったものの中国国家統計局発表のPMIが54.1と上昇(HSBCのPMIは変わらず51.3)したことや中国税関総署発表の貿易統計で輸出が+5.1%、輸入が+10.9%と予測より良かったことを好感し1888ドル(現物後場買戻)と前月最終価格から約100ドル上昇して前半締めとなった。

後半は米、英の第二四半期GDPが共に上方修正されたことや独PMIが52と予測を上回ったこと、更に独ifo指数も107.5と予測を上回るなどプラス材料もあったが、8月の米耐久財受注が-7.3%と1年ぶりの減収率まで落ち込んだ事、米国主導のシリアへの軍事介入などの地政学的リスクの台頭から急落。9月3日現在LME(現物後場)1770ドルと前半締めから70ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標: 日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-1.5%の91万114台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-6.4%の21万7411台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+12%の8万4459戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出

アルミはシリア警戒と緩和縮小懸念

LMEアルミ相場は30ドル安の1,749ドルと反落。シリア介入警戒と米緩和縮小懸念で下落。LMEアルミ合金は1,750ドルと変わらず、北米特殊アルミ合金は20ドル安の1,770ドル。

ニッケルは反発、在庫増で21万維持

LMEニッケル相場は10ドル高の1万3,645ドルと反発。在庫増で21万トンの高水準を維持。

KLTM錫は97.5セント続伸

採算値は4万2,000円高

KLTM錫は、97.5セント高の72,255Mドルと続伸。USドルは400ドル高の2万2,000ドル、出来高は30トン。Mドル/USドルレート=3.2843とTTSレート100.72円で換算した採算値は4万2,000円高の222万円、諸掛込みの採算値は4万2,000円高の238万円。

は、アルミ新地金が前月比-17.7%の135t、2次合金が+87%の1182t、スクラップが-3.3%の11142t。輸入は新地金が前年比-28%の11万4718t、2次合金が-9.3%の8万5951t、スクラップが+62.1%の804t、合金スクラップは-51.7%の4082t。

また前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+1.8%の17万9064t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比+1.6%の7万1554tであった。

■見通し: 8月はFOMC議事録公開に伴う米国金融緩和縮小懸念と 米国主導のシリアへの軍事介入に一喜一憂した月となった。FRBの要人が縮小時期の必要性についてコメントする中での21日のFOMC議事録発表への警戒感や米国

	5月	6月	7月
生産台数	73万2714台	89万3145台	91万114台
前年比	-5.2%	-9.5%	-1.5%
6月	7月	8月	
輸入台数	26万6913台	26万4914台	21万7411台
前年比	-15.6%	-13.5%	-6.4%
5月	6月	7月	
新設住宅着工数	7万9761戸	8万3704戸	8万4459戸
前年比	+9.4%	+15.3%	+12%

シリアへの軍事介入が始まった際の地政学リスクへの警戒感から。

自動車生産は前年比-1.5%の11カ月連続マイナス。国内向け-8%、輸出向け生産-1%と共にマイナスだが減少幅は縮小。販売の方は3カ月ぶりに1桁悪化に留まり前年比-6.4%、乗用車が-7.9%、貨物が+4.1%、バスが+12.2%となった。新設住宅着工戸数は先月に続き11カ月連続増加 前年比+12%（前月比（季節調整済み）+0.1%）の8万4459戸。今月も堅調な住宅関連。持家+11%、貸家+19%と大幅増。ここ最近の消費マインドの改善から、消費税・住宅減税その他の政策の動向に注目。自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+1.6%と3カ月ぶりプラス。国内自動車生産の回復基調から圧延・押出品生産数は前年比+1.8%、9カ月ぶりプラス。圧延に関して缶材は+1.6%。7月のビール系飲料出荷が+3.3%だったことから。自動車向けは-1.5%。ただしマイナス幅は前月の-10.5%から大幅縮小。

輸出は4カ月連続マイナスの一3.8%。中国への輸出が-27.2%だったことから。ただし減少幅は縮小。輸出は新地金が前年比-17.7%の135t、2次合金が+87%の1182t、スクラップが-3.3%の1万1142t。内需回復に伴い用途が多い新地金は減少。2次合金は、大幅な円安を背景に輸出増との見解。スクラップの内需の玉不足から減少。輸入は新地金が前年比-28%の11万4718t、2次合金は-9.3%の8万5951t、スクラップは+62.1%の804t、合金スクラップは-51.7%の4082t。前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、スクラップは国内自動車生

産回復基調から上昇との見解。

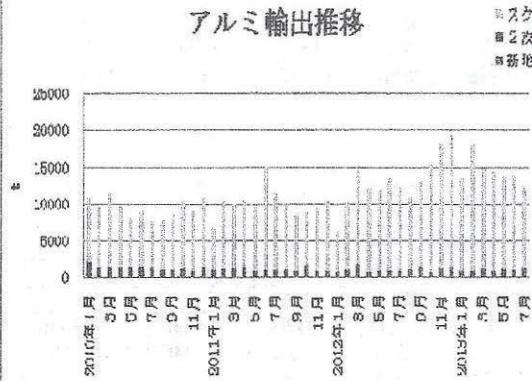
アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+12%11カ月連続増加、持家+11%、貸家+19%と好調。待望の自動車は生産が11カ月連続前年割れが続いたが-1.5%と二桁減少から大幅縮小。8月の国内販売台数も-6.4%と先月の半分まで縮小幅が減少。また中国景気後退懸念もここ最近の経済指標をみれば収まってきたおり、9月も好調が続けば、住宅、自動車、輸出の3本柱が本格回復する可能性もあり原料発生不足に原料輸出が追い打ちをかけ今後ますます供給不足拡大の可能性が高い。

LME価格に関しては、今月は米国の大統領選挙と金融緩和の縮小時期に左右される。全体としては米国、中国、欧州、日本の経済指標が比較的安定したことから、以前から噂されていた9月開始が行われる可能性が高いのではないか。シリアへの軍事介入は予測することは不可能だがいずれにせよその問題が台頭している限り、産業用金属であるアルミに関しては軍事介入は明らかにマイナス材料。それらを踏まえた価格、上値は上記がどちらも行われなかつた場合8月後半高値付近1870ドルを予測。下値は米国の金融緩和縮小開始とシリアへの軍事介入が共に行われれば大幅下落する可能性が高く8月最安値のもう一段安の1700ドル割れを予測。スクラップ価格については条件によって乱降下する可能性が高い。上記条件が二つとも行われた場合、失望感から-10円程度まで下落する。ただ二つとも行われなかつた場合は住宅、自動車、輸出の回復からの需給ひっ迫から+10円上昇すると予測。

輸入	5月	6月	7月
新地金	11万1401t	11万2136t	11万4718t
前年比	-15.5%	-6%	-28%
2次合金	9万3692t	7万7278t	8万5951t
前年比	-10.9%	-15.1%	-9.3%
スクラップ	715t	489t	804t
前年比	-0.7%	-26.8%	+62.1%
合金スクラップ	3529t	3273t	4082t
前年比	-41%	-15.7%	-51.7%

輸出	5月	6月	7月
新地金	129t	30t	135t
前年比	-11.6%	-74.1%	-17.7%
2次合金	1037t	1010t	1182t
前年比	+44.8%	+20.7%	+87%
スクラップ	12786t	13079t	11142t
前年比	+15.5%	+2.7%	-3.3%

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移

